

令和8年度 共創型研究推進事業 採択結果

研究代表者	研究題目	支援額
鮫島 玲子 (農学部)	微生物共創による茶園土壌の炭素・窒素・鉄循環の再設計—在来緑肥・酸性土壌微生物・木質資源を統合したカーボンニュートラル茶園システムの創成—	¥1,140,000
張 盛開 (人文社会科学部)	依田勉三の故郷の語りを聞く —農・食・芸能・移住の聞き書きとの比較による地域記憶の資源化—	¥760,000
崔 宰熏 (グローバル共創科学部)	キノコ廃菌床を地域資源へ転換する循環共創モデルの構築—生物活性評価と社会的連帯経済の融合—	¥750,000
定松 文 (グローバル共創科学部)	多文化共生社会における記憶の表象と反うわさ戦略の効果と組織分析	¥250,000
高橋 智子 (教育学部)	知的障害のある児童生徒の美術作品等の視覚認知に関する研究	¥740,000
山岡 拓也 (人文社会科学部)	異分野共創を促進する知識コモンズモデルの構築 —大学資源共有研究所をリビングラボとして—	¥500,000
小池 亨 (グローバル共創科学部)	未利用陸上植物を活用したウニ・ナマコ混養システムの構築	¥560,000
満下 健太 (グローバル共創科学部)	機能性成分の実測/知覚量の統合的検討: 静岡茶を対象として	¥300,000
(支援総額)		¥5,000,000

選考結果とその経緯

(選考結果)

年度	申請件数	採択件数	総支援額
令和 5 年	7	7	300 万円
令和 6 年	11	11	500 万円
令和 7 年	9	9	450 万円
令和 8 年	8	8	500 万円

(選考の経緯)

グローバル共創科学部内に選考委員会（教員 6 名で構成）を設置し、書類審査及び合議審査により採択課題及び支援額を決定した。

(書類審査)

提出された申請書を(1) 目的・概要（10 点満点）、(2) 研究計画（10 点満点）、(3) 独創性・新規性（10 点満点）、(4) 本研究における異分野融合の必要性（30 点満点）、(5) 期待される成果（10 点満点）、(6) 特筆すべき研究業績・競争的外部資金獲得状況（10 点満点）、特記事項（10 点満点）を基準に採点した（90 点満点）。

(合議審査)

書類審査の結果を踏まえ、書類審査の順位に従って、研究の方向性・重要性とともに、共創的研究としての重要性・将来性に主眼を置き審査し、採否及び支援額を決定した。

(選考において重要視した点)

書類選考において「本研究における異分野融合の必要性」を 30 点満点にしているように、提案された研究課題が如何に共創的かを重要視した。募集要項において共創的研究を、「それぞれの専門分野が有する知識・技術を融合し、単一分野では解決困難な社会課題や地球規模課題の解決を目指す研究をいう。特に、地球の持続可能性に関する課題や地域社会が直面する諸課題を対象として、文理融合を含む複数の異なる専門領域が連携して取り組む学際的研究」と定義しているが、特に二重下線部分を最重要視した。